

特集・文化財の保護

地域社会と文化財	梅原 猛	2
▷座談会◁		
文化財保護の当面の課題		8
(出席者) 坂本 太郎・関野 克 石井 清・<司会>角井 宏		
散ることをふまえた文化	内村 直也	20
美術史研究資料としての文化財	鈴木 敬	27
建造物修理用資材の確保	稲垣 栄三	34
<解説>		
地方歴史民俗資料館の現状と課題	文化庁無形文化民俗文化課	41
文化財の国際交流について	文化財鑑査官	47
<資料>	文化庁文化財保護部管理課	53
国指定文化財等件数一覧		
都道府県指定文化財件数		
市(区)町村指定文化財件数		
市(区)町村文化財保護条例制定数一覧		
文化財普及映画等一覧		
▷現地ルポ◁		
各国が注目している歴史的町並み	木原 敬吉	59
熊本県の装飾古墳について	松本 雅明	64

〔文部省の窓〕

教員等の給与改善に関する文部省要望と人事院の給与勧告	大臣官房人事課	78
昭和54年度の国立大学入学試験(第二次)の概要	大学局大学課	80
日本ユネスコ国内委員会第61回会議	学術国際局ユネスコ国際部企画連絡課	83
——「当面推進すべき重点事業」を建議——		
霞が関ニュース		94

〔随想〕

京を描いた絵	河北 倫明	70
〔所轄機関等紹介〕		
登山研修所	奥村 廣重	74
〔連載第13回〕		
人物を中心とした体育・スポーツ郷土史<山梨県>	水上 和夫	85

▶日本ユネスコ国内委員会第

61回会議を開く

日本ユネスコ国内委員会は7月29日、東京プリンスホテルで第61回会議を開き、「国際理解の増進、開発のための教育革新アジア事業」などを内容とする建議を採択した。  
(写真はあいさつする平塚会長)



◀初の運営委員会開く

10月の事業開始に向けて準備を進めている国立婦人教育会館は8月23日、文部省で初の運営委員会を開いた。  
館長、各委員、文部省から木田事務次官、望月社会教育局長も出席していよいよ運営の具体的問題について検討を開始した。(写真はあいさつする齋藤会長)



▶子どもと一緒に泳ぐ

8月13日は国民皆泳の日。ここ東京・代々木のオリンピックプールでは第25回学童水泳大会(日本水泳連盟)が開かれた。海部大臣も特別参加して子どもたちと一緒に泳いだ。(写真はプールで子どもたちにかこまれた海部大臣)



# 随 想

## 絵 描 いた 京



明 倫 北 河

今年の五月から六月にかけて、大阪と東京でひらかれた「画業六〇年記念宇田萩邸展」は、京の四季という副題のついた大回顧展で、清々しい内容が心ある人々の注目を惹いた。

京都派の重鎮であり、日本芸術院会員であるといっても、仕事ひとすじに名利に恬淡<sup>てんたん</sup>としている萩邸さんの存在は、世間的には決して華々しいものとはいえない。大正十五年の帝展に名作「淀の水車」を出し、三十一歳で帝國美術院賞を受けたときは一躍画壇の脚光を浴びたものであったが、その後の画業がしだいに円熟して、高い境地に達したのは、戦後五十代に入ってからのことといってよく、實力に比して必ずしも陽当りはよくなかったと見るべきかもしれない。

しかし、心ある人々の眼は決してその存在を見失ってはいなかったたので、そういう人々は、このたびの記念展を一樣に自分のことのように喜んだ。展覧会ときのカタログに、小野竹喬さんも次のように書いている。

「宇田萩邸氏は、友として敬愛すべき人柄である。その気性の正しき、毅然としたその態度や、高潔な生活のあり

さまは、全くうらやましいくらいである。作品もそういう美しいものが反映されていて、清らかな感じが横溢している。その作品の中でも、特に京都に取材したものに優作が多い。例えば『桂離宮笑意軒』『鴨川の夕立』『清水寺』『祇園白川の雪』など、萩邸氏の心意の美しさの溢れたものである。」

この指摘はまことにそのとおりなので、萩邸さんの描いた京都の絵ほど、伝統ある京都の風物の美しさを、澄みきった心情とすがすがしい美観の中に結晶させた作例は少ない。四条派から大和絵の古典にまで突きぬけて円熟した萩邸さんの芸術は、日本画というものの本領に徹した仕事である。それは、現代画の中で、後代まで光を失わない数少ないものの一つと、私は確信している。

ところで、この萩邸芸術のピークとなるものが、京都の風物を描いたものの中にあることは、上記のとおりだが、それについて作者自身は次のようにいう。

「京都は古文化の中心地であり、文学、美術、あらゆる方面の宝庫があり、静かな風格をもっています。古都の史跡を味わい知るうちに、いつかこの都に住みなれて、この

道に入ったことと思われます」と。

すなわち、作者の生活、情操、風格といったものと、古都京都の風趣とが、長い時間の中で、深くこまやかに溶けあい、こなれきったところで、独自のピクチャーとした仕事が生まれてきているのである。さらにいえば、これはとても付焼刃の古都風景などでなく、いわゆる観光京都などとは全く次元の違った世界である。「京を描いた絵」と言うよりは「京に生きる絵」とでも言うべきで、その表面に出ない作者の内側に、大へんな深さと厚味があることを承知しておくべきだろう。それでこそ、何気ない京の風物を描いた萩邸画が、そのまま「心意の美しさの溢れたもの」となってくる。つまり、京の風物と作者の心意とは、深く、美しく、こまやかに、同じリズムで、同じメロディを奏でる、微妙な境地に突き入っているわけである。

かつて、私は萩邸さんとある雑誌のために対談したことがあったが、そのとき談がたまたま鍋木清方の芸術におよんだとき、萩邸さんは語った。

「鍋木先生の絵にかかれるようなところ、もう東京には全然ありません。先生の絵には東京人でなければ描けんよ

うなものが出てます。東京人が京都の風物をかいてもびつたりこないですな。」

おそらく、荻邸さんは、清方えがくところの東京の風物に呼応する立場で、京の風景風物を描きつづけているのだらう。そこが荻邸芸術のきめ手であり、世間に京を描いた絵が汎濫する中で、ひときわ密度の高い清澄な光を放っている所以といわなければならぬ。

さて、これとからむことだが、先年、私はT社に頼まれて、日本画による「京の四季」という画集を監修した。その機会に、改めて近代のすぐれた日本画家たちの手になる京の四季、その風景、風物、風俗を扱った数々の作例に当たったが、そこに大まかにいって三様の立場があることがわかった。

その第一は、たとえば竹内栖鳳、上村松園、徳岡神泉といった人々に代表されるような京生れ京育ちの作家による京を描いた絵である。いったい、千年の都であった京都には、古来わが国を代表する高い芸術文化の伝統があり、平安、鎌倉、室町、桃山と各時代にわたって花をひらき、徳川幕府が力をつけてきた江戸後期においても、円山四条派

のような都雅な画風が全国的勢力をもったことは人の知るところである。するどく言えば、円山四条派といった画体は、それ自身が京都文化であり、京都そのものなので、この流れから出た近代京都派の日本画も、ある意味ではそれ自体が京都と見るべき質のものであった。あたかも錦木清方が明治新東京そのものであったように、栖鳳や松園は京都そのものであったといつてよからう。

松園えがく優美な美人画は、いつてみれば京菓子、京友禅のような京の特産であると思えた批評家があったが、そのように栖鳳や松園の作品は、京都の風物、風俗を描いたものというよりは、その作品自身がすでに京都そのものであった。この点は、戦後の新様式の画家とも見られた神泉の場合にも指摘できるので、単純化した夕映えの中の薄や、水に浮ぶ蓮葉や、刈田などの表現は、平安以来の宗教的感覚、その深さと都雅な洗練を背景とせずには生まれ出ない作境なのであった。その絵自身、京都以外にはないものを指示していたのである。

こういう系列に対して、もちろん外から京都を見、外から仔細に突きこんだ作例も多い。名高いものでは、とくに

東京の院展作家の作品、たとえば横山大観『夜桜』、前田青邨『京八景』、速水御舟『洛北修学院村』、最近では奥村土牛の『醍醐』などの名作がある。いずれも、古都の風物が画家のすぐれた芸術神経を刺戟したもので、作品として素晴らしいものになっているが、しかし、そこにある京都は、外の立場から把握されたものという性格が明らかであろう。その徹底したものが御舟あたりの作品に見られたわけである。

この外からの立場も、もちろん一様ではなく、京都の風物の外形の妙に惑かれるものあれば、風情の興趣に反応するものもある。御舟の作例は客観的追求のゆうなるものであったが、近年東山魁夷がえがいた『京の四季』あたりになると、焦点は、いかにも近代のわれわれが理解する京都らしい京都の美観追求となっている。そうした角度は、いつてみれば近代人の芸術神経が再認識する古都京都といった意味あいにならう。こうした立場からの京の風物は、見方次第では、第一系列の作例以上に、一般人の京都に対するイメージに答えているかもしれない。その点、今日、京の風物は、近代日本文化の中でもよほど特別の存在になりか

けているわけである。

この内からの立場の第一と、外からの立場の第二の系列のほかに、中間的な第三系列とみるべき作例があることは興味ある事実である。この第三系列は、外から京都に移り住んで京都化した一群の作家たちと、京都で生まれ育ちながら外へ飛び出した一群の人たちの手になるもので、この中に京都を描いた卓抜な作例が多々あることも注目しなければなるまい。京都化した作家としては、土田麦僊、村上華岳、小野竹喬、福田平八郎、その他多くの名家があり、はじめにあげた荻邸さんも、同じ上方文化圏とはいいながら、もとは松阪の人である。京都から出た人としては、最近では加山又造、森田曠平といった実力作家がおのずから京風を内にふくんだ作品を発表している。

こうしてみると、京を描いた絵にもさまざまなものがあり、荻邸式の行き方を座標軸として、内と外、表と裏ともいうべき種々の立場があることがわかってくる。これは、かりに京都を日本というスケールに置きかえても、同じように類推できる興味ある現象というべきであろう。

〔特集・教育課程の基準の改善／帰国子女教育〕

新学習指導要領と今後の学校教育

斎藤 正

教材の精選について

河野 重男

ゆとりと充実を目指す学校運営

吉本 二郎

△解説▽

教育課程の基準の改善について

奥田 真文

△資料▽

新小学校、中学校学習指導要領等の施行につ

いて通達、新旧対照表等 小学校教育課、中学校教育課

帰国子女教育の諸問題

園 一彦

帰国子女教育の実践

若林 博

〔座談会〕

帰国子女教育を語る

小林 哲也・斎藤 繁子・鈴木 孝一

△出席者▽

武智 浩隆・中山 昇一

△司会▽

柳原 康男

△現地ルポ▽

帰国子女教育研究協力校を訪れて

本間平安子

△解説▽

帰国子女教育の現状

中学校教育課

編集後記

◇巨人軍の王選手がついに七五六号ホームランを打ち、世界新記録を達成した。十九年間、これはアメリカのハンク・アーロンより短い期間だそうだが、この間に七五六本もホームランを打ったのだから、やはりこれはたいへんな偉業だと思ふ。日米間のレベルの違いとか球場の広さの違いとかいうこともそれは厳密に言えば影響はあろうが、そんなことは度外視して、日本の王選手が七五六本のホームランを打ったのだから、一プロ野球ファンとして、いや一国民としてこの偉業を祝福したい。

◇政府はこの大偉業に対して国民榮譽章を授与することに決定した。この章の意味はもうここでは触れなくても皆さんご存知のことと思ふが、この中に「社会を明るくし、国民に親しまれる人」というくだりがある。王選手の偉業とともに、王選手の人柄については「くに、この「国民に親しまれる」というくだりがピッタリあてはまるような気がする。

◇一般に、人に親しまれる、人に好かれるということとは、どういふことか、ここで一つひとつ触れなくてもご理解いただけたらと思うが、自分のことしか考えない若者が増えたといわれる昨今、今回の学習指導要領の改訂によるゆとりのある学校教育によって、子供達に少しでも幅広い人間に育つことを期待したい。

(H)



浅井忠「収穫」 1890年

油彩・キャンバス 69×99cm 東京芸術大学蔵 重要文化財

農機具の発達で近年の農村風物は一変してしまつたが、以前は収穫期に日本中の農村で繰りひろげられた光景である。明るい日射しをうけながら、一家総出で農作業に忙がしい。おだやかな稔りの秋の農村の情景が見事に描かれている。

浅井忠(1856~1907)についてはさきに「春畝」をこの欄で(昭51.2)紹介したことがあるが、明治初期洋画の代表的な画家の1人で、1876年(明治9年)に創設された工部美術学校で、イタリアから来日した外人教師フォンタネージに学んだ。この作は1889年に最初の洋画団体として創立された明治美術会の第2回展に出品されたが、フォンタネージの自然主義的な作風をよく消化し、油絵で描かれた新鮮な日本の風景画として大いに注目された。この師弟の関係は、今秋東京国立近代美術館で開催される「フォンタネージ、ラザーと明治前期の美術」展でも紹介される。

(三木多聞)

MEJ 5204 月刊 「文部時報」 9月号 第1204号

著作権  
所有

文 部 省

昭和52年9月5日 印刷  
昭和52年9月10日 発行

発行所 株式会社きょうせい  
本社 東京都中央区銀座7丁目4番12号  
(郵便番号 104)  
(営業所) 東京都新宿区西五軒町52番地  
(郵便番号 162)  
電話 東京(268) 2141(代表)  
振替口座 東京9-161番  
印刷所 株式会社 行政学会印刷所

定価 180円 (〒33円)

年間購読料 2160円 (〒共)

\* ただし、増大号、臨時号の場合は別に代金を申し受けます  
\* なお、購読の申し込みは、直接営業所またはよりの書店をお願いします